

千葉市学校適正配置実施方針

～夢広がる学校づくりへ向けて～

平成19年10月

(平成29年2月改正版)

本改正版は、平成19年10月に策定した千葉市学校適正配置実施方針における児童・生徒数、学校規模および各地区の取組みを平成28年度の最新データに修正したものである。

千葉市教育委員会

千葉市学校適正配置実施方針

— 目 次 —

I	実施方針策定にあたって	1
II	適正配置に向けての取り組みの基準	2～6
1	千葉市における学校の適正規模	2
	(1) 適正規模についての基本的な考え方	
	(2) 千葉市における学校の適正規模	
2	千葉市における学校適正配置対象校	2～3
	(1) 11学級以下となる小規模小学校	
	(2) 11学級以下となる小規模中学校	
	(3) 25学級以上となる大規模小学校	
	(4) 25学級以上となる大規模中学校	
3	千葉市小・中学校の学校適正配置	4
	(1) 学校適正配置を行うにあたっての基本的な考え方	
	(2) 適正通学区域圏設定の視点	
4	適正配置の取り組み方法	4～7
	(1) 小規模校の適正配置	
	ア 小規模校の立地形態による区分	
	イ 小規模校の分布状況	
	ウ 小規模校の適正配置の検討方法	
	(2) 大規模校の適正配置	
III	統合に伴う教育環境の整備	7～8
1	通学路の安全確保	
2	学校施設・設備の整備	
3	教員等の配置	
4	その他	
IV	統合による跡施設利用の基本的な考え方	8
V	統合による適正配置の進め方	9～10
1	地元説明会の実施	
2	地元代表協議会の設置	
3	統合準備会の設置	
VI	適正配置に向けたスケジュール	10
VII	小規模校の適正配置 —立地形態(パターン)ごとの具体的検討の取り組み—	11～16
1	狭い地域に複数の小規模校がある場合[Aパターン]	11～14
2	小規模校が分散してある場合[Bパターン]	15
3	小規模校が点在してある場合[Cパターン]	16
VIII	大規模校の適正配置 —具体的検討の取り組み—	16
資料編		17～27

データは、一部の断り書きがあるもの以外、**平成34年度の推計値**により示している。

学校適正配置実施方針

I 実施方針策定にあたって

1 実施方針策定の趣旨

子どもたちのよりよい教育環境の整備と教育の質の充実を目的とした学校適正配置を推進するため、実施方針を策定する。

2 実施方針策定に向けた背景

本市の小・中学校は、昭和40年代以降の急増期から昭和60年代以降の減少期へ移行する過程において、多くの小・中学校で小規模校化が進んできた。一方で、その後の開発等により地域によっては、大規模校化している学校も出てくるなど、学校間における教育環境の不均衡や小規模校化・大規模校化による教育上・学校運営上の様々な問題が提起されてきた。

本市では、学校規模の適正化に向け、平成16年度から2年間にわたり、市内5か所、10校の小学校を対象に第1次学校適正配置に取り組み、平成18年4月に千葉市初の統合校「千葉市立花島小学校」を開校した。

第1次学校適正配置の取り組みでは、通学距離、小・中学校配置のバランスなど「規模だけでなく配置からの検討の必要性」、地域コミュニティの整合性などの「学校と地域の関係を考慮する必要性」さらには、将来の人口推移と地域特性を考慮に入れるなど「将来を見据えた学校適正配置計画の必要性」等が課題として示された。これらの課題を踏まえ、平成18年度からは、第2次の取り組みをスタートさせ、平成19年3月に「第2次千葉市学校適正配置検討委員会」による答申を受けたところである。

平成19年度において本市では、11学級以下の小学校が全体の38%を占め、美浜区と若葉区では50%を超える。また、11学級以下の中学校は全体の55%を占め、美浜区では70%を超える。一方で、開発により、大規模校化が急激に進んでいる小・中学校が各区の一部に存在する。

このような本市の学校規模と配置の現状を踏まえ、学校の小規模校化や大規模校化によって生じる教育上・学校運営上の諸問題を解消するとともに、公平な教育環境を整え、教育の質の向上を図るため、学校適正配置を推進することが喫緊の課題となっている。

3 千葉市の教育施策上の必要性

21世紀の千葉市を担う子どもたちを取り巻く環境は、社会の高度情報化、価値観の多様化、少子高齢化など複雑な様相を見せている。

このような社会情勢の中、本市では、「人間尊重の教育」を基本理念に、「わかる授業・楽しい教室・夢広がる学校づくり」に向け、社会の変化に柔軟に対応できる「生きる力」の育成を目指して、創意工夫を生かした様々な特色ある教育活動を展開している。

子どもたちに、自ら考え、自ら学ぶ力など「生きる力」をはぐくむためには、学校での集団活動をとおして、互いに学び合い、高め合うなど切磋琢磨するとともに、様々な考え方や経験を持った仲間との交流をとおして社会性や集団性を身につけていくことが極めて大切であり、学校がこうした役割を十分発揮するために、適正な児童生徒数や学級数を確保し、活力ある学校づくりを進めていく必要がある。

II 適正配置に向けての取り組みの基準

1 千葉市における学校の適正規模

本市の目指す学校教育を実現するために、小規模校・大規模校それぞれの問題点を踏まえつつ、本市における学校の適正規模を次のとおりとする。

(1) 適正規模についての基本的な考え方

- ① 児童生徒及び教員間において、多様な人間関係を育むことのできる学校規模であること。
- ② 学習形態に応じた指導や多様な選択教科、総合的な学習の時間など、今日的な教育を展開できる学校規模であること。
- ③ 特別教室や体育館などの施設利用に制限を受けることなく、授業時間を適切に割り当てることが可能な学校規模であること。

(2) 千葉市における学校の適正規模

上記の適正規模についての基本的な考え方を踏まえ、本市における学校の適正規模の基準を次のとおりとする。

	小学校	中学校
1校あたり	12学級以上24学級以下	12学級以上24学級以下

2 千葉市における学校適正配置対象校

適正規模を下回る学校(11学級以下の学校)を小規模校、適正規模を上回る学校(25学級以上の学校)を大規模校とし、将来についても適正規模への回復が見込めない学校を適正配置に向けて取り組むべき対象校とした。なお、学級編制については、小学校1～4年生が35人、5・6年生が38人、中学校は全学年38人で算出した。

(1) 11学級以下となる小規模小学校(41校)

*花見川第一・第二小の統合校

(小学校)

※分校、特別支援学級を含まない。

学級数	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	校数
3				千城			1
4				大宮台			1
6	仁戸名 大巖寺	横戸 花見川第三 さつきが丘西 柏井 花島		坂月 白井 更科 大宮 千城台北 千城台旭 若松台 源	大木戸 越智 大椎	高洲第四 真砂第五 稲浜	21
7		<瑞穂>	弥生	千城台西 千城台南			4
8	弁天					高浜第一	2
9		花見川*				<高浜海浜>	2
10		<長作>	あやめ台	<みつわ台北>			3
11		<こてはし台> <西小中台> <さつきが丘東>	<千草台東>	<千城台東>		<打瀬> <高洲>	7
計	3	11	3	14	3	7	41
全市校数(小学校111校)に対する割合							36.9%

< >内は、平成28年度は適正規模であるが、平成34年度推計では小規模校となる学校。

(2) 11学級以下となる小規模中学校（26校）

(中学校) ※稲毛高附属ならびに特別支援学級を含まない。

	学級数	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	校数
小規模	3				白井 更科			2
	4						高洲第二	1
	6	川戸 星久喜	犢橋		大宮	土気 越智	幸町第一	7
	7			千草台			高浜	2
	8		〈こてはし台〉 さつきが丘		千城台南			3
	9	末広	〈天戸〉 朝日ヶ丘 〈花見川〉		千城台西		〈高洲第一〉	6
	10			都賀			〈幸町第二〉	2
11	椿森		〈轟町〉			稲浜	3	
計		4	6	3	5	2	6	26
全市校数(中学校54校)に対する割合								48.1%

〈 〉内は、平成28年度は適正規模であるが、平成34年度推計では小規模校となる学校。

(3) 25学級以上となる大規模小学校（10校）

(小学校) ※分校、特別支援学級を含まない。

	学級数	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	校数
大規模	25	〈星久喜〉	〈検見川〉	〈山王〉	〈桜木〉	〈土気南〉 〈小谷〉		6
	28	宮崎						1
	30				〈北貝塚〉			1
	31	新宿						1
	32			小中台				1
計		3	1	2	2	2	0	10
全市校数(小学校111校)に対する割合								9.0%

〈 〉内は、平成28年度は適正規模であるが、平成34年度推計では大規模校となる学校。

(4) 25学級以上となる大規模中学校（1校）

(中学校) ※稲毛高附属ならびに特別支援学級を含まない。

	学級数	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	校数
大規模	25	蘇我						1
計		1	0	0	0	0	0	1
全市校数(中学校54校)に対する割合								1.9%

〈 〉内は、平成28年度は適正規模であるが、平成34年度推計では大規模校となる学校。

3 千葉市小・中学校の学校適正配置

次に示す基本的な考え方にに基づき、小・中学校の適正配置を推進する。

(1) 学校適正配置を行うにあたっての基本的な考え方

学校適正配置は、中長期的に適正な学校規模を確保するとともに、全市的なバランスを考慮した学校配置とする。但し、地理的・社会的な成り立ちによる生活圏域や行政区分、学校の歴史的な背景や施設条件を勘案し、検討することとする。

(2) 適正通学区域圏設定の視点

適正配置に伴う通学区域圏の設定は、次の点に配慮して行う。

- ① 通学距離は、「千葉市立小学校及び中学校通学区域設定に関する方針」を踏まえ、小学校で概ね4 km以内、中学校で概ね6 km以内とする。
ただし、「統合」を検討する際は、通学距離と時間に十分配慮する。
- ② 通学区域の設定に当たっては、次の諸要件についても配慮する
 - ・地域及び学校の歴史的、沿革的な要因
 - ・小学校と中学校の通学区域の整合性
 - ・幹線道路、河川、鉄道などの通学環境
 - ・地域コミュニティとの整合性

4 適正配置の取り組み方法

(1) 小規模校の適正配置

ア 小規模校の立地形態による区分

千葉市における小規模校の立地状況を見ると、3つの形態に区分することができる。

- ① 【Aパターン地域】複数の小規模校が集中する地域
- ② 【Bパターン地域】小規模校が分散している地域
- ③ 【Cパターン地域】小規模校が点在して存在する地域

① 【Aパターン地域】(学校名は p. 11)

○花見川地区	○美浜地区	○千城台地区
・小学校 4校	・小学校 6校	・小学校 5校
・中学校 1校	・中学校 6校	・中学校 2校

② 【Bパターン地域】(学校名は p. 15)

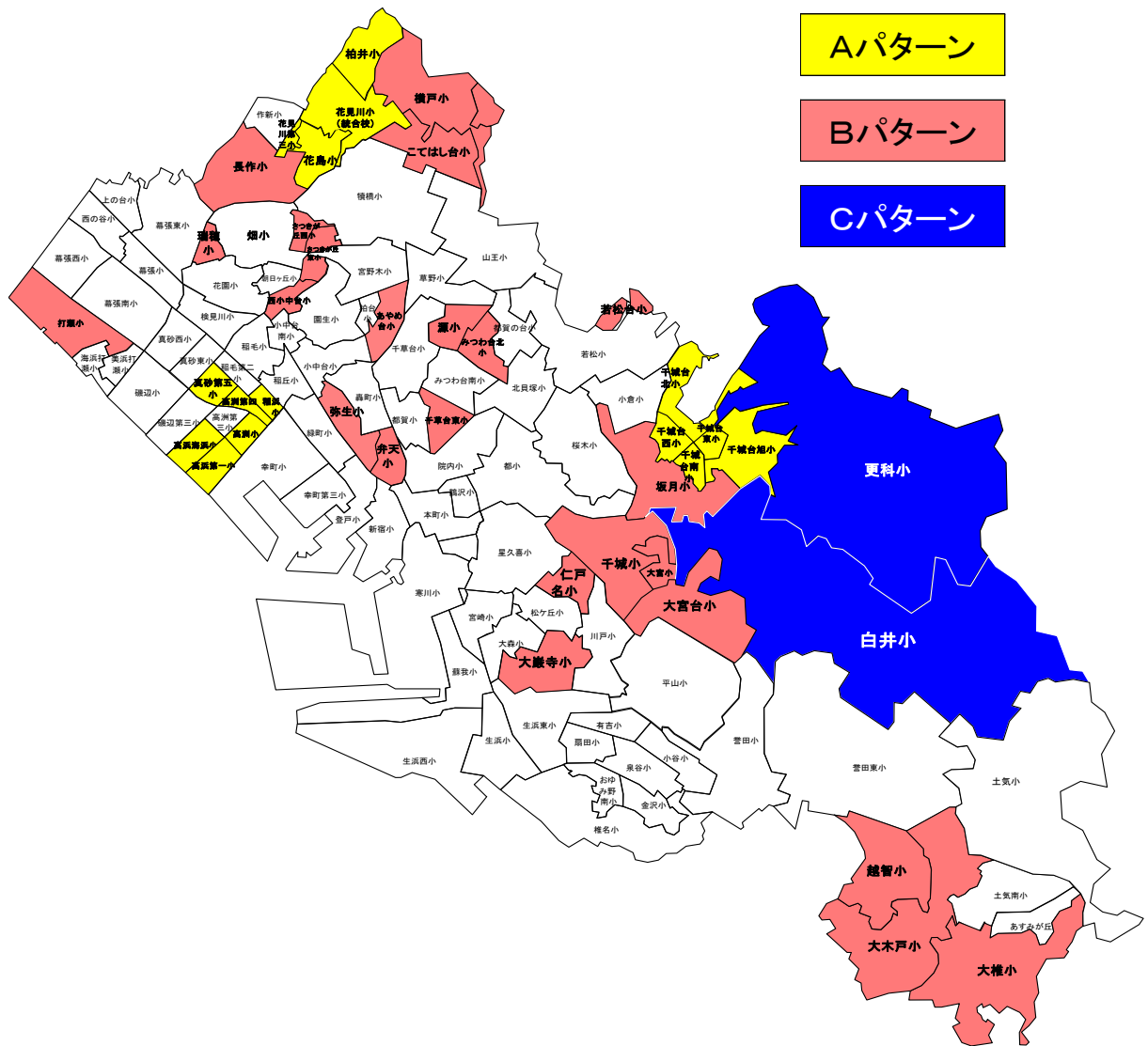
※上記A、下記Cパターンに示した以外の地域

③ 【Cパターン地域】

○更科小学校	○白井小学校	
○更科中学校	○白井中学校	○土気中学校

イ 小規模校の分布状況

【小学校】



ウ 小規模校の適正配置の検討方法

小規模校の適正配置の検討は、「統合」及び「学区調整」の方法を基本とし、立地形態の区分ごとに、次のように適正配置の方法を検討する。

①【Aパターン地域】の適正配置

Aパターン地域（複数の小規模校が集中する地域）においては、地域の枠組みを設定し、統合により適正配置を検討する。その際、必要に応じて通学区域の調整を行う。

②【Bパターン地域】の適正配置

Bパターン地域（複数の小規模校が分散している地域）においては、学校の立地条件により、それぞれ次の方法により適正配置を検討する。

- [1] 隣接した箇所に大規模校がある場合⇒大規模校との通学区域の調整により適正配置
- [2] 隣接した箇所に小規模校しかない場合⇒統合により適正配置
- [3] 隣接した箇所に適正規模校がある場合で
 - (a) 適正規模校が20学級以上の場合⇒学区調整等により適正配置
 - (b) 適正規模校が20学級未満の場合⇒統合等により適正配置

③【Cパターン地域】の適正配置

Cパターン地域（小規模校が点在して存在する地域）においては、通学手段の検討による統合や小中一貫教育等の制度の導入などにより適正配置を検討する。

(2) 大規模校の適正配置

隣接する学校との通学区域の調整等により、適正配置を検討する。

III 統合に伴う教育環境の整備

統合による新設校開校に際しては、子どもたちにとってよりよい教育環境を整えるため、以下の条件整備等を行うものとする。

1 通学路の安全確保

- ① 通学路の安全マップを作成する。
- ② セーフティウォッチ事業及び各種安全ボランティアの活用により、児童・生徒の安全対応を図る。
- ③ 学校セーフティウォッチャーや教員に加え、適正配置後の小学校に統合校安全指導員（適正配置に伴うスクールガードアドバイザー）を配置する。
- ④ 通学路状況による施設面での安全対策について、関係機関に要望していく。

2 学校施設・設備の整備

- ① 施設・設備面において、機能的に新設校と同等程度の整備を実施する。
- ② 大規模改修を基本として、リニューアルを実施する。（教室のリニューアル、エレベーターの設置等）
- ③ 耐用年数等により、大規模改修では対応できない校舎については、改築を検討する。

3 教員等の配置

統合に伴う環境の変化等に対応するとともに、きめ細かな指導を行うため、教員の加配及びスクールカウンセラーの配置を行う。また、職員の配置に当たっては、児童・生徒の心理的な面を配慮するとともに、地域性を理解した教育の推進が図れるよう、統合前の職員をバランスよく配置する。

- ① スムーズな学校運営と安定した教育実践が行われるよう、統合に伴う教員を加配する。
- ② 統合後の小学校にスクールカウンセラーを配置する。

4 その他

- ① 子どもルームについては、放課後子ども教室との連携を考慮しつつ、既存施設の活用等利用児童の状況や、当該地域の設置状況等を総合的に勘案し検討することとする。
- ② 特別支援学級や適応指導教室が設置されている学校については、統合後も引き続き活用が図れるようにする。

Ⅳ 統合による跡施設利用の基本的な考え方

「千葉市資産経営基本方針（平成24年1月）」に基づき、中長期的な視点から、人口・世代構成や、周辺施設の状況、地元住民の要望などを総合的に勘案して、跡施設利用を検討する。

V 統合による適正配置の進め方

適正配置に向けて、対象校の保護者や地域住民等に対する説明会を開催するとともに、「地元代表協議会」を設置し、地元の意見や要望を十分踏まえて進めるようにする。

原則として次の手順のもとに、進める。

1 地元説明会の実施

- (1) 対象となる地区内の小・中学校長へ説明
- (2) 地元対象説明会の開催

地元対象説明会 場所：対象地区内中学校体育館

- 説明会実施単位
 - ・小規模校の立地パターンごとの枠組み単位で
- 説明会の周知方法
 - ・地元住民に対しては、該当自治会を通し案内する。
 - ・保護者に対しては、各学校を通し保護者宛に案内する。

2 地元代表協議会の設置

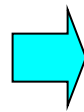
学校適正配置についての合意形成を図るとともに、統合の実実施計画についての検討を行うため、「地元代表協議会」を設置し、統合等に向け協議する。

地元代表協議会

(自治会代表者、小・中学校PTA・保護者会代表者、地域の青少年育成関係団体代表者、その他地域に応じて必要な団体の代表者)、教育委員会

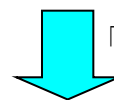
(1) 学校適正配置の検討

- ① 統合候補校
- ② 通学区域
- ③ 通学路の安全対策
- ④ 統合後の各団体の再編



(2) 合意形成

- ① 統合校の確定
- ② 通学区域及び通学路の設定
- ③ 統合時期の設定
- ④ 統合の実実施計画の策定



「統合等の要望書」を提出

(3) 跡施設利用について地元要望の集約

教育委員会

統合等を市として決定し学校適正配置を実施

3 統合準備会の設置

統合による新設校への円滑な移行に向けて、「統合準備会」を設置し検討事項についての協議を行う。

統合準備会〔P T A・保護者会、地元代表、校長・教頭・教務主任、教育委員会（総務課・学校施設課・学事課・教職員課・指導課・保健体育課・企画課）〕

主な検討事項

- | | |
|--------------|--------------------|
| ①統合スケジュール | ⑥記念行事 |
| ②校名、校歌、校章 | ⑦新入生への配慮 |
| ③教育環境整備、安全対策 | ⑧閉校式、開校式 |
| ④メモリアルルーム | ⑨児童生徒、保護者、教職員の意見把握 |
| ⑤交流事業 | ⑩新設校説明会等の開催 |

VI 適正配置に向けたスケジュール

教育環境の格差を是正し、公平な教育環境を確保するためには、全市的、かつ計画的に学校適正配置を進める必要がある。そのため、Aパターン地域から着手し、B・Cパターン地域にも適宜取り組むこととする。

○これまでの取組み状況とスケジュール

表中の「説明会」は地元説明会、「協議会」は地元代表協議会、「準備会」は統合準備会のこと

パターン	地区	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
A	真砂	説明会開催 協議会設置	準備会設置 合意形成		準備会設置 合意形成	統合校開校						
	高洲・高浜	説明会開催	高洲準備会設置 高洲合意形成		高浜準備会設置 高浜合意形成	統合校開校						
		協議会設置										
	磯辺	説明会開催				準備会設置 合意形成	準備会設置 合意形成	統合校開校				
		協議会設置										
	幸町	説明会開催					準備会設置 合意形成 (第一段階)	準備会設置 合意形成 (第二段階)	第一段階小学校 統合校開校			
		協議会設置							準備会設置 合意形成 中学校統合協議	統合見送	第二段階小学校 統合校開校	
稲毛海岸・高洲	説明会開催	近隣の住宅開発を注視										
千城台		保護者・自治会へ説明	地元説明会開催 協議会設置	当分の間、中学校統合見送								
花見川		自治会へ説明	保護者へ説明	地元説明会開催	協議会設置	中学校合意形成 準備会設置	小学校合意形成	中学校統合校開校	準備会設置 (H29年度小学校開校予定)			
B	小中台南小		学区調整委員会の答申を受け自治会・保護者へ説明し理解を得る	学区調整実施	当面は現状通りとし状況を注視							
	弥生小		保護者・自治会へ説明	当面は現状通りとし状況を注視								
大規模校	泉谷中	基本計画 基本設計	実施設計・用地取得・敷地造成工事	杭打ち工事・建設工事	建設工事・校庭整備工事	おゆみ野南中開校						
	新宿小		保護者・自治会へ説明 協議会設置	合意形成 新宿中学校内に校舎増築案決定	増築校舎設計	増築校舎建設工事	増築校舎建設工事	分教室開設				

Ⅶ 小規模校の適正配置 —立地形態（パターン）ごとの具体的な検討の取り組み—

1 狭い地域に複数の小規模校がある場合（Aパターン）

Aパターン地域の適正配置の方法（p.7）に基づき適正配置を検討する。

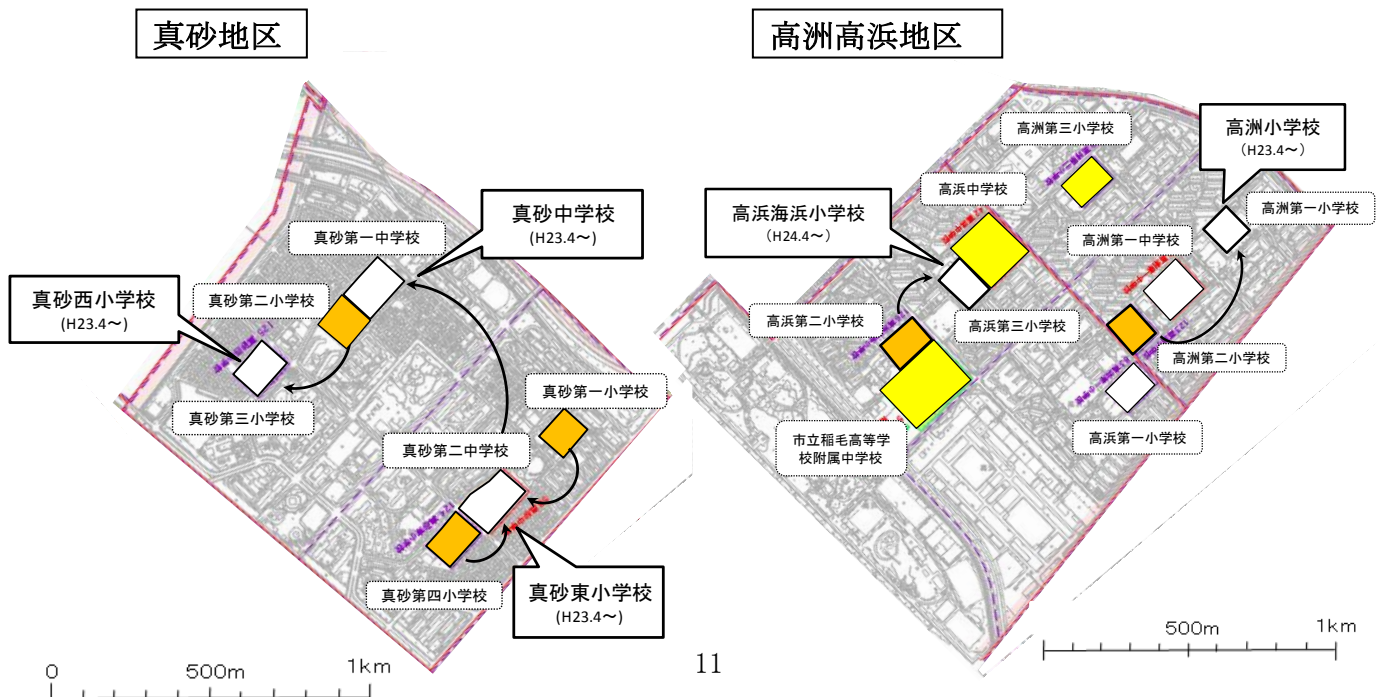
＜Aパターン地域の学校規模の状況＞

	小規模小学校	適正規模小学校		小規模中学校	適正規模中学校
	(11学級以下)	(12~19学級)	(20~24学級)	(11学級以下)	(12~19学級)
美浜地区	高洲第四小	幸町第三小	稲毛第二小	幸町第一中	真砂中
	真砂第五小	高洲第三小		高洲第一中	磯辺中
	高浜第一小	磯辺第三小		高洲第二中	
	稲浜小	真砂東小		高浜中	
	高浜海浜小	真砂西小		幸町第二中	
	高洲小	磯辺小		稲浜中	
		幸町小			
千城台地区	千城台北小			千城台中	
	千城台西小			千城台南中	
	千城台東小				
	千城台南小				
	千城台旭小				
花見川地区	花見川第三小			花見川中	
	柏井小				
	花島小				
	花見川小(統合校)				

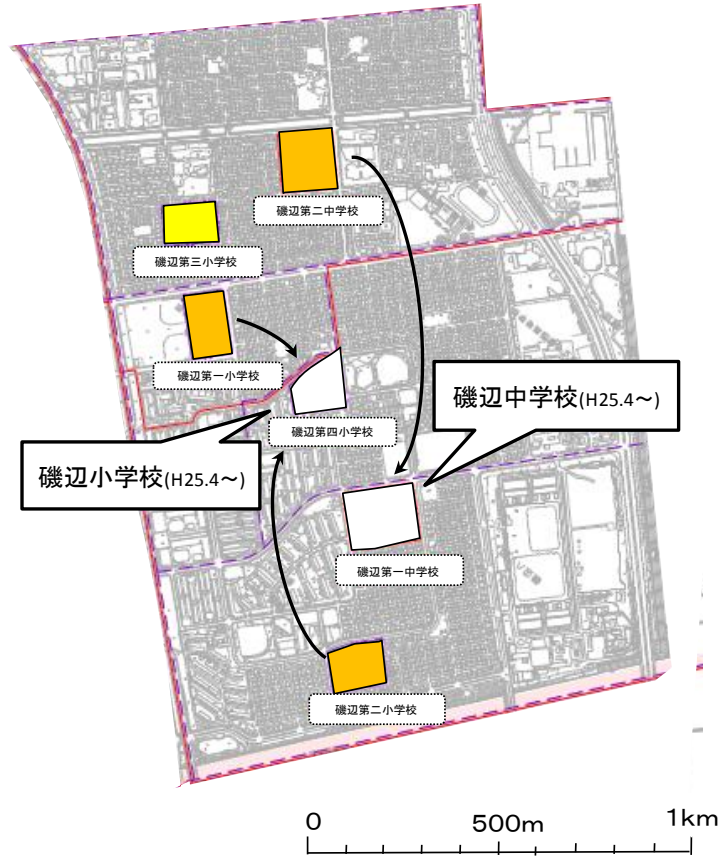
＜美浜区内の各地域の枠組み＞

美浜区は小規模校が多いため、地域コミュニティや道路・京葉線高架等を考慮し、次のような地域の枠組みをつくり、適正配置を検討する。

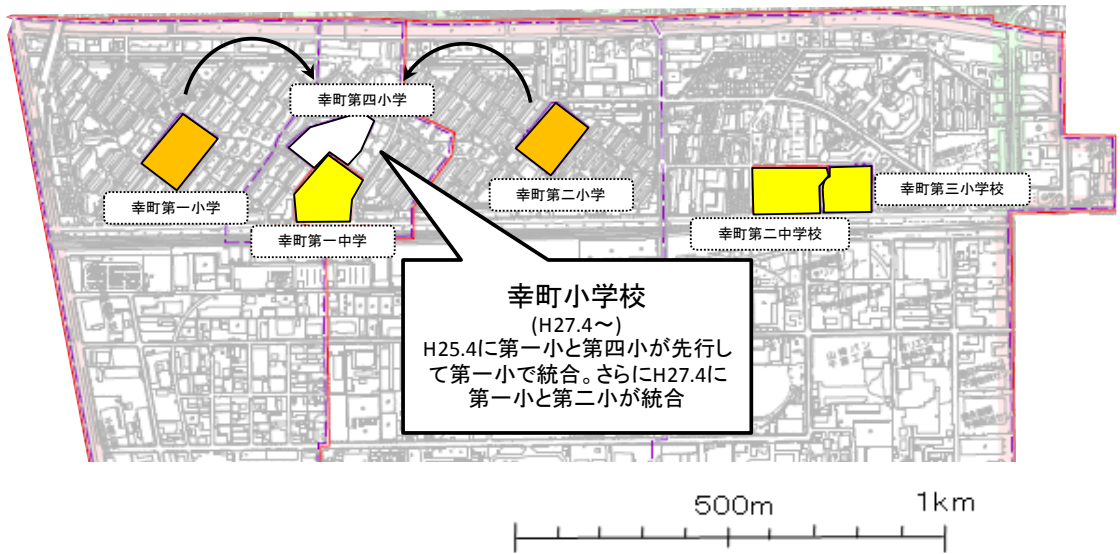
(平成19年11月 磯辺地区と高洲・高浜地区の地域の枠組み一部変更)



磯辺地区



幸町地区



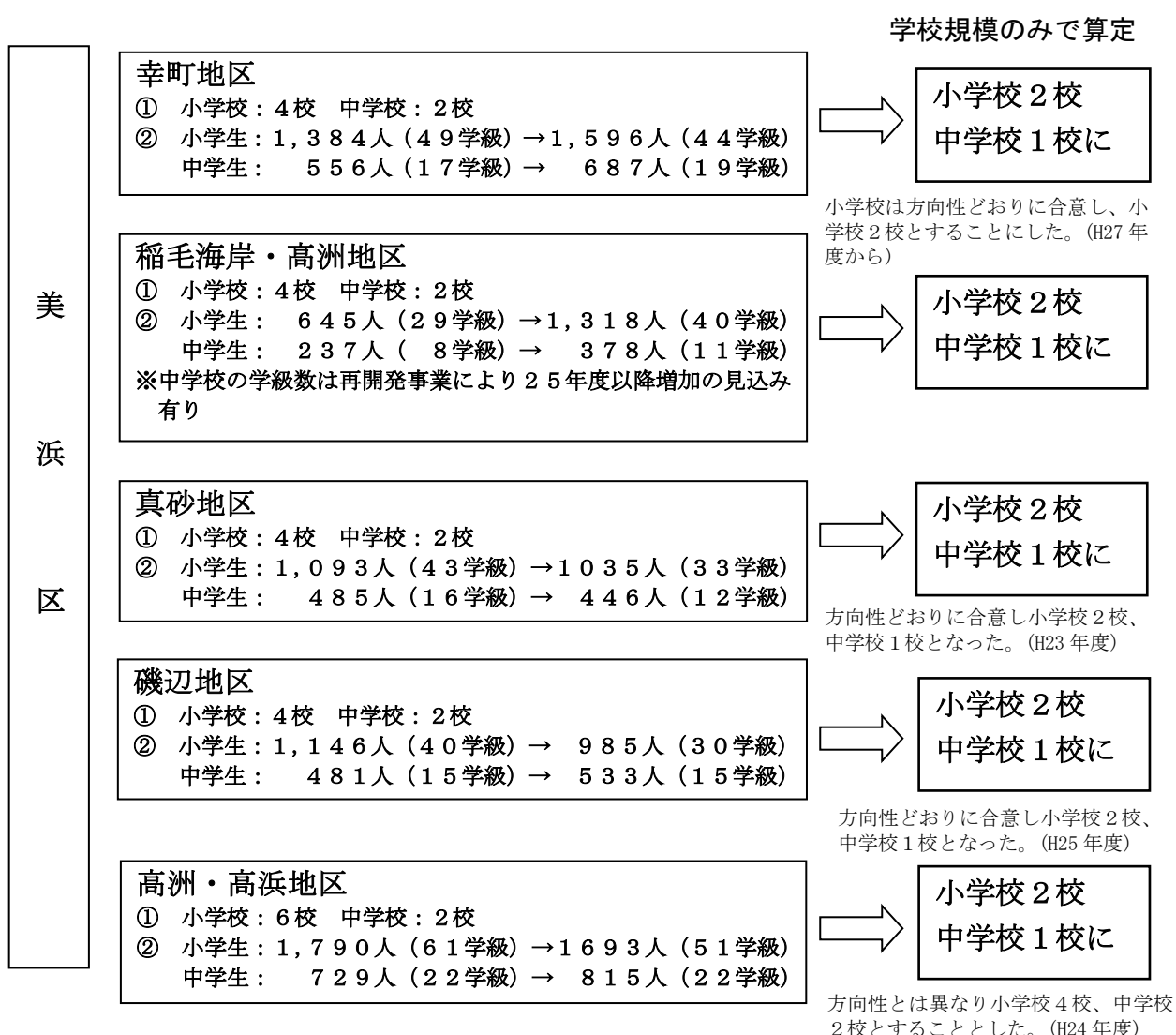
【美浜区の地域の枠組み】

	小規模小学校	適正規模小学校		小規模中学校	適正規模中学校
	(11学級以下)	(12~19学級)	(20~24学級)	(11学級以下)	(12~19学級)
幸町地区		幸町第三小 幸町小		幸町第一中 幸町第二中	
高洲・高浜地区	高浜第一小 高洲小 高浜海浜小	高洲第三小		高洲第一中 高浜中	
真砂地区		真砂東小 真砂西小			真砂中
稲毛海岸・高洲地区	高洲第四小 真砂第五小 稲浜小		稲毛第二小	高洲第二中 稲浜中	
磯辺地区		磯辺小 磯辺第三小			磯辺中

〈参考〉 平成19年度に示した各地区の適正配置の方向性

学校規模の観点のみで考えたものであり、実際は地域の実情や学校の歴史を踏まえ、地元代表協議会の中で、より合理的な方向性を検討していく。

- ① 地区の学校数【平成19年5月現在】
- ② 児童生徒数及び学級数【平成19年5月現在（ ）→25年度推計値（ ）】
- ※（ ）内は地区内の学級数の合計
- ③ 19年度の学級数は5月現在の実数、25年度は小学校1・2年生、中学校1年生については1学級38人で、他の学年については40人で算出

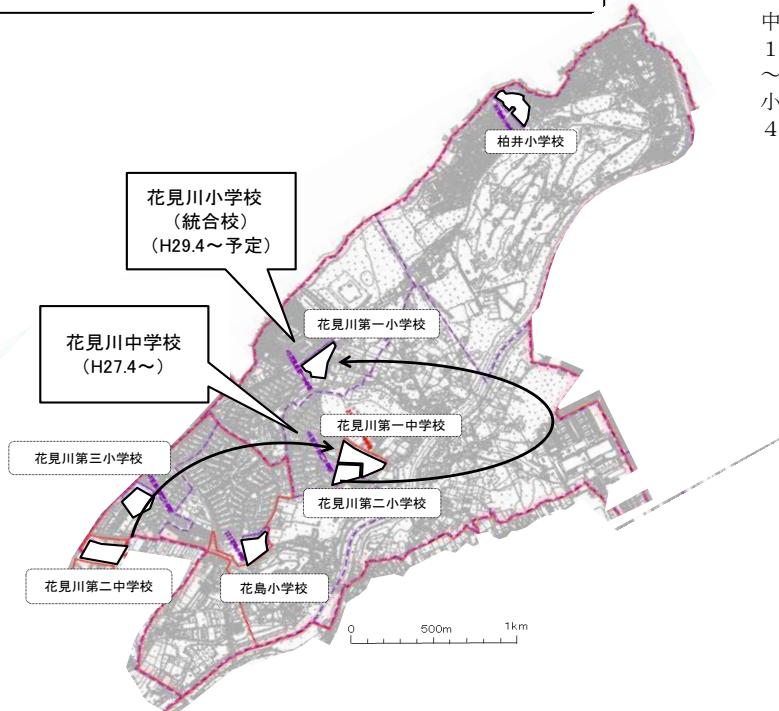


<花見川区内の地域の枠組み>

花見川地区
 ① 小学校：5校 中学校：2校
 ② 小学生：1,230人(48学級) → 1,129人(35学級)
 中学生：565人(17学級) → 528人(16学級)

小学校2校
 中学校1校に

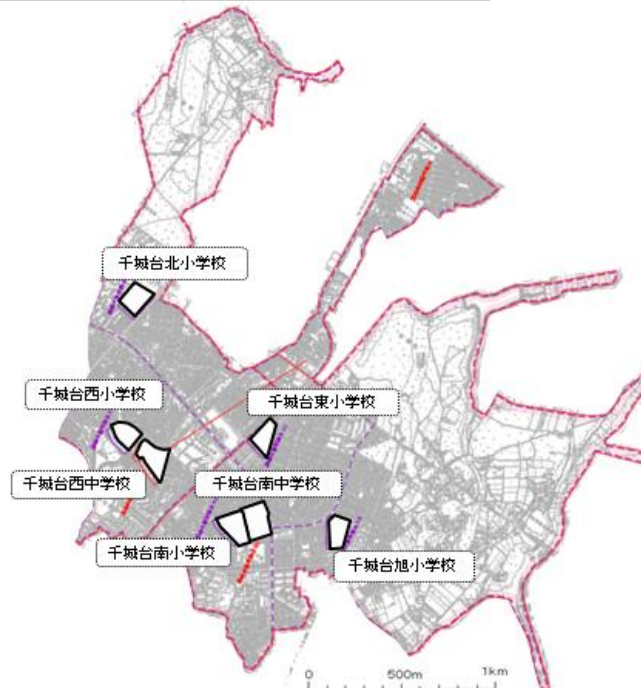
中学校は方向性どおりに合意し、1校にすることになった。(H27年度～)
 小学校は方向性とは異なり小学校4校とすることにした。(H29年度～)



<若葉区内の地域の枠組み>

千城台地区
 ① 小学校：5校 中学校：2校
 ② 小学生：1,303人(48学級) → 1,141人(34学級)
 中学生：612人(19学級) → 607人(17学級)

小学校2校
 中学校1校に



2 小規模校が分散してある場合 (Bパターン)

Bパターン地域の適正配置の方法 (p. 7) に基づき適正配置を検討する小・中学校

区	番号	Bパターン小学校	学級数	隣接する小学校				番号	Bパターン中学校	学級数	隣接する中学校			
				小規模小学校	適正規模小学校		大規模小学校				小規模中学校	適正規模中学校		大規模中学校
				(11学級以下)	(12~19学級)	(20~24学級)	(25学級以上)				(11学級以下)	(12~19学級)	(20~24学級)	(25学級以上)
中央区	1	弁天小	8	弥生小	本町小 登戸小 都賀小 轟町小	院内小	新宿小	1	末広中	9	星久喜中	新宿中 葛城中		蘇我中
	2	仁戸名小	6	千城小	松ヶ丘小 川戸小		星久喜小	2	椿森中	11	都賀中	加曾利中 新宿中 葛城中 貝塚中		
	3	大蔵寺小	6		大森小 松ヶ丘小 川戸小 生浜東小			3	川戸中	6	大宮中	加曾利中 生浜中 松ヶ丘中	有吉中	蘇我中
花見川区	4	横戸小	6	こてはし台小 柏井小 花見川小				5	横橋中	6	さつきが丘中 こてはし台中 花見川中	草野中 緑が丘中 山王中		
	5	長作小	10	花見川第三小 花島小	畑小 横橋小 作新小			6	さつきが丘中	8	朝日ヶ丘中 横橋中	緑が丘中	花園中	
	6	こてはし台小	11	横戸小 花見川小	横橋小		山王小	7	こてはし台中	8	横橋中 花見川中			
	7	西小中台小	11	さつきが丘東小	稲毛小 朝日ヶ丘小	園生小 花園小 小中台南小		8	天戸中	9	横橋中 花見川中	幕張中	花園中	
	8	さつきが丘西小	6	さつきが丘東小	横橋小 畑小 宮野木小			9	朝日ヶ丘中	9	さつきが丘中	稲毛中	小中台中 花園中	
	9	さつきが丘東小	11	西小中台小 さつきが丘西小	横橋小 畑小 園生小 宮野木小 旭日ヶ丘小									
	10	瑞穂小	7		畑小 幕張東小	花園小								
稲毛区	11	弥生小	7	弁天小	登戸小 轟町小 緑町小		小中台小	10	轟町中	11	都賀中 千草台中	緑町中 新宿中 草野中	小中台中	
	12	あやめ台小	10		轟町小 千草台小 柏台小 宮野木小 草野小		小中台小	11	千草台中	7	都賀中 轟町中	草野中 みつわ台中		
	13	千草台東小	11		都賀小 千草台小 みつわ台南小	院内小		12	都賀中	10	椿森中 轟中 千草台中	新宿中 みつわ台中		
若葉区	14	千城小	3	坂月小 白井小 仁戸名小 大宮小 大宮台小	川戸小	都小	星久喜小	13	大宮中	6	白井中 川戸中	加曾利中 菅田中	有吉中	
	15	坂月小	6	千城小 白井小 千城台西小 千城台南小 千城台旭小		都小 小倉小	桜木小							
	16	大宮小	6	大宮台小 千城小										
	17	大宮台小	4	千城小 白井小 大宮小	平山小 菅田小 川戸小									
	18	みつわ台北小	10	源小	みつわ台南小 都賀の台小		北貝塚小							
	19	若松台小	6			若松小								
	20	源小	6	みつわ台北小	千草台小 草野小 みつわ台南小 都賀の台小									
緑区	21	大木戸小	6	越智小 大権小	土気小 菅田東小	あすみが丘小	土気南小	14	越智中	6	土気中	菅田中 大権中 土気南中		
	22	越智小	6	大木戸小	菅田東小									
	23	大権小	6	大木戸小	土気小	あすみが丘小	土気南小							
美浜区	24	打瀬小	11	幕張西小 幕張南小 海浜打瀬小 美浜打瀬小										

3 小規模校が点在している場合 (Cパターン)

Cパターン地域の適正配置の方法 (p. 5) に基づき適正配置を検討する。Cパターンの小・中学校とその検討の対象校は、次のとおりとする。

区	番号	Cパターン 小学校	学級数	通学手段等の検討による統合などが考えられる小学校		番号	Cパターン 中学校	学級数	通学手段等の検討による統合などが考えられる中学校	
				小規模小学校	適正規模小学校				小規模中学校	適正規模中学校
若葉区	1	更科小	6	千城台旭小 千城台北小 千城台東小 千城台西小 千城台南小 白井小 坂月小		1	更科中	3	千城台西中 千城台南中 白井中 大宮中	
	2	白井小	6	千城台旭小 千城台北小 千城台東小 千城台西小 千城台南小 更科小 坂月小		2	白井中	3	千城台西中 千城台南中 更科中 大宮中	
緑区						3	土気中	6	越智中	土気南中

Ⅷ 大規模校の適正配置 — 具体的検討の取り組み —

隣接する学校との通学区域の調整等を行う

※通学路の安全性が十分確保されない状況が生じるなど、やむを得ない事情により通学区域の調整ができなかった地域については、30学級までは、特別教室の改修や仮設校舎の建設、増築により対応を行う。

大規模校の小・中学校とその検討の対象校は、次のとおりとする。

区	番号	大規模 小学校	学級数	隣接する小学校				番号	大規模 中学校	学級数	隣接する中学校			
				適正規模小学校							適正規模中学校			
				小規模 小学校 (11学級以下)	(12~19学級)	(20~24学級)	大規模 小学校 (25学級以上)				小規模 中学校 (11学級以下)	(12~19学級)	(20~24学級)	大規模 小学校 (25学級以上)
中央区	1	星久喜小	25	千城小 仁戸名小	本町小 鶴沢小 松ヶ丘小	都小 寒川小	宮崎小	1	蘇我中	25	末広中 星久喜中 川戸中	生涯中 松ヶ丘中		
	2	宮崎小	28		大森小 松ヶ丘小 寒川小	蘇我小	星久喜小							
	3	新宿小	31	弁天小	登戸小 本町小 寒川小									
花見川区	4	検見川小	25		稲毛小 幕張小 真砂東小	花園小								
稲毛区	5	山王小	25	こてはし台小	猿橋小 草野小 都賀の台小 荻松小									
	6	小中台小	32	弥生小 あやめ台小	稲丘小 轟町小 緑町小 小中台南小	園生小								
若葉区	7	桜木小	25	坂月小	小倉小	都小 若松小	北貝塚小							
	8	北貝塚小	30	みつわ台北小	みつわ台南小 都賀の台小	院内小 都小 若松小	桜木小							
緑区	9	土気南小	25	大木戸小	土気小	あすみが丘小								
	10	小谷小	25		菅田小 平山小 有吉小 泉谷小									

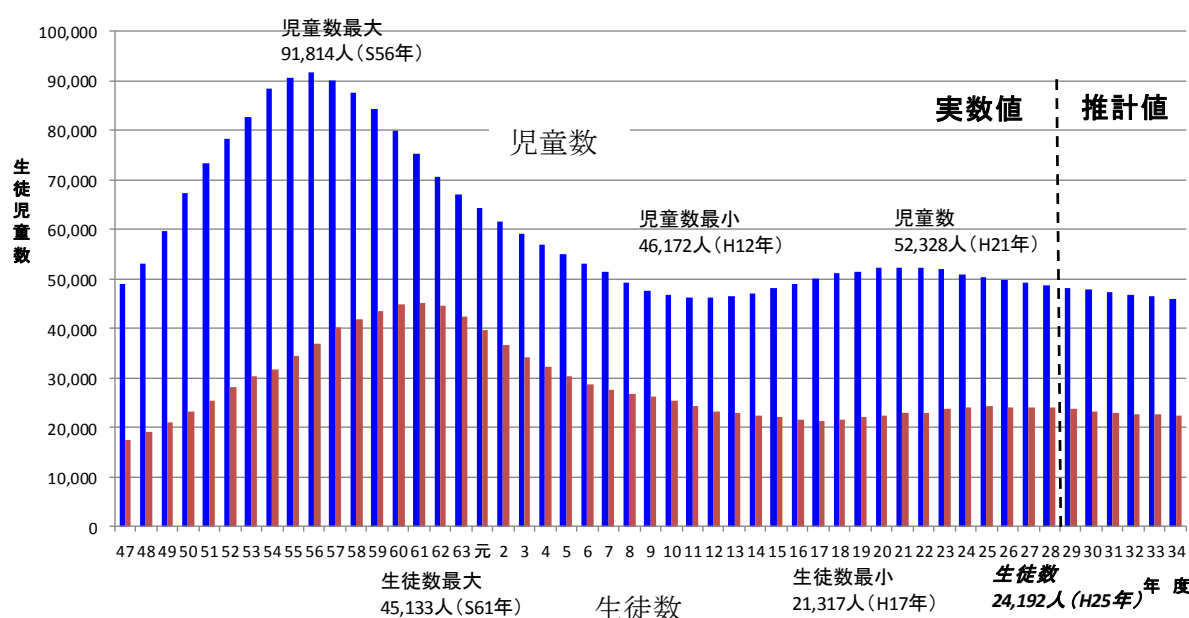
資料編

1 千葉市の児童生徒数の推移

千葉市内の小学校の児童数は、昭和56（1981）年度に9万1千814人のピークを記録した後は、平成12（2000）年度まで減少を続け、平成13（2001）年度から、ゆるやかに増加へ転じているが、平成21（2009）年度をピークに、再び減少傾向へ移行している。

また、中学校の生徒数は、昭和61（1986）年度に4万5千133人のピークを記録した後、平成17（2005）年度まで減少を続け、平成18（2004）年度から、ゆるやかに増加へ転じているが、平成25（2013）年度をピークに、再び減少傾向へ移行することが予測される。

千葉市における児童・生徒数の推移



平成28年度までは実数、それ以降は推計値(平成28年5月1日現在)

ただし、特別支援学級の児童・生徒数を除く

2 千葉市の小規模校の割合

本市の状況を見ると、平成28（2016）年度の千葉市の小規模小学校の数(分校を除く)は34校で、全体の30.4%を占める。行政区ごとの割合を見ると、若葉区は60.0%、花見川区は39.1%、緑区は25.0%、美浜区は22.2%である。なお、美浜区は適正配置の実施等により、平成26年度の36.8%に比べて14.6%改善した。

また、平成28（2016）年度の千葉市の小規模中学校の数(市立稲毛高等学校附属中学校を除く)は20校で、全体の37.0%を占める。行政区ごとの割合を見ると、若葉区は50.0%、中央区は44.4%、美浜区は40.0%、花見川区は30.0%である。なお、花見川区は、適正配置の実施等により、平成26年度の54.5%に比べて24.5%改善した。

小規模小学校について(分校を除く)

	昭和56年度			平成28年度			平成34年度(推計)		
	全体学校数	小規模校数	小規模校の割合	全体学校数	小規模校数	小規模校の割合	全体学校数	小規模校数	小規模校の割合
中央区	18	0	0.0%	19	3	15.8%	19	3	15.8%
花見川区	21	1	4.8%	23	9	39.1%	22	11	50.0%
稲毛区	16	0	0.0%	16	2	12.5%	16	3	18.8%
若葉区	19	2	10.5%	20	12	60.0%	20	14	70.0%
緑区	6	1	16.7%	16	4	25.0%	16	3	18.8%
美浜区	21	1	4.8%	18	4	22.2%	18	7	38.9%
全市	101	5	5.0%	112	34	30.4%	111	41	36.9%

大規模小学校について(分校を除く)

	昭和56年度			平成28年度			平成34年度(推計)		
	全体学校数	大規模校数	大規模校の割合	全体学校数	大規模校数	大規模校の割合	全体学校数	大規模校数	大規模校の割合
中央区	18	6	33.3%	19	2	10.5%	19	3	15.8%
花見川区	21	6	28.6%	23	0	0.0%	22	1	4.5%
稲毛区	16	10	62.5%	16	2	12.5%	16	2	12.5%
若葉区	19	6	31.6%	20	0	0.0%	20	2	10.0%
緑区	6	2	33.3%	16	1	6.3%	16	2	12.5%
美浜区	21	7	33.3%	18	2	11.1%	18	0	0.0%
全市	101	37	36.6%	112	7	6.3%	111	10	9.0%

小規模中学校について(市立稲毛高等学校附属中学校を除く)

	昭和61年度			平成28年度			平成34年度(推計)		
	全体学校数	小規模校数	小規模校の割合	全体学校数	小規模校数	小規模校の割合	全体学校数	小規模校数	小規模校の割合
中央区	9	0	0.0%	9	4	44.4%	9	4	44.4%
花見川区	10	0	0.0%	10	3	30.0%	10	6	60.0%
稲毛区	7	0	0.0%	7	2	28.6%	7	3	42.9%
若葉区	10	1	10.0%	10	5	50.0%	10	5	50.0%
緑区	4	1	25.0%	8	2	25.0%	8	2	25.0%
美浜区	11	1	9.1%	10	4	40.0%	10	6	60.0%
全市	51	3	5.9%	54	20	37.0%	54	26	48.1%

大規模中学校について(市立稲毛高等学校附属中学校を除く)

	昭和61年度			平成28年度			平成34年度(推計)		
	全体学校数	大規模校数	大規模校の割合	全体学校数	大規模校数	大規模校の割合	全体学校数	大規模校数	大規模校の割合
中央区	9	2	22.2%	9	1	11.1%	9	1	11.1%
花見川区	10	6	60.0%	10	1	10.0%	10	0	0.0%
稲毛区	7	1	14.3%	7	0	0.0%	7	0	0.0%
若葉区	10	6	60.0%	10	0	0.0%	10	0	0.0%
緑区	4	0	0.0%	8	0	0.0%	8	0	0.0%
美浜区	11	3	27.3%	10	1	10.0%	10	0	0.0%
全市	51	18	35.3%	54	3	5.6%	54	1	1.9%

3 学校適正配置の必要性

(1) 学校適正配置の目的

学校規模の適正化により、学校の小規模化や大規模化によって生じる、教育上・学校運営上の諸問題を解消し、21世紀の新しい教育に対応できる教育環境の総合的な整備を図る。
(第1次千葉市学校適正配置検討委員会報告より)

本検討委員会は、この報告(第1次の報告)を踏まえた上で、新たに教育行財政面を考慮しつつ学校適正配置の必要性について再検討を加え、その結果「公立学校の教育の充実」「教育環境の公平性」「教育資源の再配分と有効活用」の3つの観点からも、必要であるとの結論を得た。
(第2次千葉市学校適正配置検討委員会報告より)

- 公立学校の教育の充実
 - ・ 公立学校の教育力(学校力)を強化する。
 - ・ 「わかる授業・楽しい教室・夢広がる学校」づくりの一層の推進と子どもたちの「人間力」育成のために、より良好な教育環境を構築する。
- 教育環境の公平性
 - ・ 教育活動や学校運営上に生じる問題を解消する。
 - ・ 学校規模の大小による教育環境の不均衡や地域格差の是正、教育環境の公平性という観点からも学校規模の適正化と学校配置が必要とされる。
- ※ 参考資料を参照。
- 教育資源の再配分と有効活用
 - ・ 学校運営の効率性の向上や教育資源の再配分による有効活用を検討する。
 - ・ 学校規模の適正化による教室改善や教員加配等による教育環境充実に向けての取り組みが必要である。

<参考> 中学校における学級数と教員配置

学年学級数	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6~7学級	
学校規模	3学級規模	6学級規模	9学級規模	12学級規模	15学級規模	19学級規模	
学級人数	38人以下	38~19人	38~25人	38~28人	38~30人	38~31人	
学年人数	38人以下	76~39人	114~77人	152~115人	190~153人	266~191人	
全校人数	114人以下	228~117人	342~231人	456~345人	570~459人	722~611人	
クラス替え	できない。	クラス替えができる。					
教職員配当 基準26年度	学級担任	3人	6人	9人	12人	15人	19人
	教務主任						
	生徒指導主事 副担任等	4人	5人	6人	7人	7人	10人
	教諭計	7人	11人	15人	19人	22人	29人

教職員配当基準は平成26年度千葉県公立小中学校定員配置基準による。
また、中学1年生だけ1学級35人編制としている。

(2) 第1次学校適正配置取り組みの課題

第1次学校適正配置における取り組みでは、地域や保護者から、学校として一定規模が必要なことについては概ね理解を得たが、一方で地域性を反映した様々な課題が明らかになった。

本検討委員会では、これらの課題を整理し、基本的な考え方をまとめるにあたり、次の3つの観点を踏まえることとした。

- (1) 「規模だけでなく配置からの検討の必要性」
- (2) 「学校と地域の関係を考慮することの必要性」
- (3) 「将来を見据えた学校適正配置計画の必要性」

(第2次千葉市学校適正配置検討委員会報告より)

(1) 「規模だけでなく配置からの検討の必要性」

- ・通学距離、小・中学校配置のバランス、地域と通学区域の整合など、学校規模だけでなく配置の面からも検討する。

(2) 「学校と地域の関係を考慮することの必要性」

- ・地域の活動団体や地域としてのまとまりに配慮して、学校配置や通学区域の調整を検討する。

(3) 「将来を見据えた学校適正配置計画の必要性」

- ・千葉市人口と児童生徒数の推移や地域特性を踏まえた、将来を見据えた学校適正配置計画を立案する。

4 小規模校のメリットとデメリット

小規模校には長所と短所があり、下記のようにその捉え方は様々である。しかし、子どもたちの社会性や協調性を育てるためには、子どもたちの集団活動や多くの教職員とのふれあいなどを保障できる学校規模が必要である。

(1) メリット

- 子ども同士よく知り合うことができ、家族的な人間関係を築くことができる。
- 縦割り集団活動など、異学年とのかかわりを深めることができる。
- 学校行事などで、子ども一人ひとりの活動場面が多くなる。
- 全教職員が校内全員の子どものを知ることができ、きめ細かく指導することができる。
- 学校全体で臨機応変の対応、弾力的な対応ができる。
- P T A等の活動に対して、一人ひとりの活動への参加率や参加意識が高い。

(2) デメリット

- 行動範囲や対人関係がせばまり、人間関係を修復したり、広げたりしていく力や社会性が育ちにくい。
- クラス替えができないため、友人関係の固定化や集団の中での序列化を招く恐れがある。いじめ等への対応にも困難が伴う場合がある。
- 友人関係や学級間の対抗が少なくなるため、切磋琢磨する機会に恵まれにくい。
- 自分とは異なる考えと比べながら自分の考えを深めたり、一緒に解決し充実感を味わったりする集団学習のよさや効果が出にくい。
- 子どもたち同士が学び合い、助け合う環境が作りにくいいため、授業に幅や厚みがなくなり、教員の一方的な授業になりやすい。
- 運動会や音楽会など、多人数で取り組み、力をあわせた喜びが得られる行事等が行いにくく、学校全体の活気が乏しくなる。
- 教員数が少ないため、学校行事・クラブ活動・総合的な学習・選択科目などの内容が制限される。また、多くの教員と出会うことにより得られる刺激が少ない。
- 教員一人当たりの公務の負担が増えて多忙化が進む。また、相談する相手が少ないと、指導法の固定化が進んだり生徒指導上の対応が難しくなったりする。
- P T A等の活動に伴う保護者の役割分担や、一人当たりの経費負担が大きい。

(3) 各教科や領域の指導別のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
国語科	指導が行き届き、発表する機会が多いという利点が、本読みや書き取りへの成果につながるが多い。	様々な人の考えに触れながら「私はこう考える」「ぼくはこう思う」といった、自分の思いや考えを深める学習が成立しにくい。
算数科	九九の練習など、繰り返しによって身につく学習には、成果が上がる。	考える道筋を大切に学習では話し合いが重要だが、多様な考え方が出にくい。算数の得意な児童に引っ張られる傾向がある。
理科	理科室や実験器具に余裕があり、実験方法等の指導がゆきとどく。	実験方法や予想に対する多様な考えが出にくい。実験を行う班が少ないため、実験のデータの比較や吟味を通して考えを深めることが難しい。
社会科	掛け地図や視聴覚資料などの教材は、余裕を持って活用できる。一人ひとりで調べる学習は、進めやすい。	個人作業が多くなり、他の班の発表を聞いて比較する活動がやりにくかったり、共同で勉強する楽しさを味わったりすることが難しい。
図画 工作科	個人作業や作品の製作は、比較的集中して行うことができる。	共同で作品を制作する活動が難しい。友達の作品を鑑賞することを通して、多様な表現があることに気づく機会が少なくなる。
家庭科	家庭科室や用具に余裕があり、指導も行き届くので、余裕をもった学習展開ができる。	友達と協力して実習したり作品を完成させたりする充実感を味わいにくい。多様な作品や意見が出にくく、比較などがしにくい。
保健 体育科	個々への指導が行き届き、技能向上の達成感や充実感を味わわせやすい。安全面への配慮に指導が行き届く。	球技などの集団種目はミニゲームとなり、正しいルールなどを体得できない。常に限られたチーム編成になり、試合がやりにくい。
音楽科	少人数での合奏は、効果的に練習できる。楽器などが余裕を持って活用できる。	友達の合奏や合唱を聴いて表現方法や音色を比較しにくい。多くの人数での演奏や合唱、音づくりの活動を楽しむ活動ができない。
道徳	規律や規範を理解させやすい。ボランティア活動などは、行いやすい。	価値観の違いや行動の仕方について、多様な見方や考えが出にくく、話し合いが深まらない場合が多い。
総合的な学習の時間	テーマが決まりやすく、活動に取り組みやすい。一人ひとりの活動に指導が行き届く。	活動のダイナミックさが薄れることが多い。互いの思いや願いを交流させながら活動を深めていくことが難しい。リーダーに引っ張られる傾向が強い。

5 平成27年度 統合小・中学校に関するアンケート調査について

○「アンケート調査」(児童・生徒対象)

1 目的

学校統合後の現状を把握し、学校経営等の参考に資すると共に、今後の学校適正配置に係る資料の一助とする。

2 実施内容

(1) 対象 平成27年度統合校：幸町小学校の2～6年生

花見川中学校の2・3年生

(2) 調査期間 平成27年10月7日(水)～10月21日(水)

(3) 調査方法 質問紙法(選択記述式)

※児童用は、担任が問いを読みながら実施。問6・7は、小学校5・6年生及び中学生のみ回答

3 アンケート調査結果

(1) 集計結果

【小学校】

(1)新しい小学校になってからどんなことに努力しましたか	先行地区 7校平均	幸町
新しい学校の歴史をつくる	22%	24%
友達と仲良くする	84%	82%
学級の仕事をしっかりやる	45%	41%
運動会などの行事を成功させる	46%	43%
きれいな学校にする	41%	49%
児童会や特設クラブの活動を頑張る	28%	34%
その他	4%	2%
無回答	0%	0%

【中学校】

(1)新しい小学校になってからどんなことに努力しましたか	先行地区 2校平均	花見川
新しい学校の歴史をつくる	32%	19%
友達と仲良くする	53%	75%
学級の仕事をしっかりやる	59%	40%
体育祭などの行事を成功させる	49%	62%
きれいな学校にする	30%	19%
生徒会活動や部活動を頑張る	34%	50%
その他	4%	0%
無回答	1%	0%

(2)教室の様子は、去年と比べてどう変化しましたか	先行地区 7校平均	幸町
新しい友達ができた	86%	84%
明るい雰囲気となった	58%	65%
学習が楽しくなった	52%	49%
意見がまとまりにくくなった	17%	14%
今までと変わらない	8%	6%
その他	4%	4%
無回答	0%	0%

(2)教室の様子は、去年と比べてどう変化しましたか	先行地区 2校平均	花見川
新しい友達ができた	80%	53%
明るい雰囲気となった	43%	41%
学習が楽しくなった	18%	25%
意見がまとまりにくくなった	13%	14%
今までと変わらない	11%	8%
その他	6%	6%
無回答	2%	1%

(3)昼休みなど、休み時間の過ごし方は、去年に比べてどう変化しましたか	先行地区 7校平均	幸町
遊びの仲間が増えた	69%	68%
遊びの種類が増えた	45%	44%
よく外で遊ぶようになった	44%	35%
遊ぶことが少なくなった	12%	10%
今までと変わらない	17%	21%
その他	5%	4%
無回答	0%	0%

(3)昼休みなど休み時間の過ごし方は、去年に比べてどう変化しましたか	先行地区 2校平均	花見川
遊びの仲間が増えた	54%	43%
友達とおしゃべりすることが増えた	35%	52%
友達とよく遊ぶようになった	33%	26%
一人で過ごすことが多くなった	18%	4%
今までと変わらない	20%	32%
その他	3%	1%
無回答	2%	1%

(4) 遠足や運動会などの行事に変化がありましたか	先行地区 7校平均	幸町	(4) 校外での活動や体育祭などの行事に変化がありましたか	先行地区 2校平均	花見川
人数が増えて行事が楽しくなった	72%	71%	人数が増えて行事が楽しくなった	54%	41%
行事がにぎやかになり、迫力や活気が出てきた	53%	52%	行事がにぎやかになり、迫力や活気が出てきた	65%	45%
行事に積極的に参加するようになった	31%	32%	行事に積極的に参加するようになった	22%	20%
人数が増えて行事をやるのがたいへんになった	21%	14%	人数が増えて行事をやるのがたいへんになった	24%	11%
今までと変わらない	14%	19%	今までと変わらない	13%	12%
その他	1%	2%	その他	2%	2%
無回答	0%	0%	無回答	2%	0%

(5) 先生の人数が増えたことについてどう思いますか	先行地区 7校平均	幸町	(5) 先生の人数が増えたことについてどう思いますか	先行地区 2校平均	花見川
多くの先生とお話ができてよかった	48%	50%	多くの先生と話や相談ができてよかった	15%	9%
いろいろな先生に教えてもらってよかった	47%	49%	いろいろな先生に教えてもらってよかった	25%	24%
特設クラブなどの数が増えて良かった	21%	22%	部活動などの数が増えて良かった	31%	11%
先生の名前を覚えるのがたいへんになった	54%	37%	先生の名前を覚えるのがたいへんになった	28%	31%
今までと変わらない	14%	19%	今までと変わらない	32%	40%
その他	2%	1%	その他	8%	3%
無回答	0%	0%	無回答	2%	1%

(6) 児童会の活動に変化がありましたか	先行地区 7校平均	幸町	(6) 生徒会の委員会活動に変化がありましたか	先行地区 2校平均	花見川
人数が増え、委員会活動が活発になった	47%	57%	人数が増え、委員会活動が活発になった	27%	29%
委員会の仕事が一人に集中しなくなった	24%	19%	委員会の仕事が一人に集中しなくなった	23%	17%
学年で話し合う機会ができた	36%	8%	いろいろな人と話し合う機会が増えた	17%	24%
委員会の仕事が多くなった	26%	15%	委員会の仕事が多くなった	17%	8%
今までと変わらない	21%	44%	今までと変わらない	33%	43%
その他	5%	2%	その他	7%	2%
無回答	0%	0%	無回答	3%	2%

(7) 特設クラブにどんな期待がありますか	先行地区 7校平均	幸町	(7) 部活動にどんな変化がありましたか	先行地区 2校平均	花見川
人数が増え、これから活発になっていく	49%	56%	人数が増え、活発になった	55%	46%
いろいろな練習ができるようになり、強くなっていく(上手になっていく)	42%	52%	いろいろな練習ができるようになり、強くなった(向上した)	31%	27%
多くの先生に教えてもらえるようになり、楽しみだ	39%	36%	多くの顧問の先生に教えてもらえるようになった	18%	14%
チーム(クラブ)編成のとき、人数不足の心配がなくなる	22%	19%	チーム編成のとき、人数不足の心配がなくなった	18%	16%
とくに期待することはない	17%	15%	今までと変わらない	19%	29%
その他	2%	0%	その他	17%	5%
無回答	0%	0%	無回答	4%	3%

(8)授業の様子や学習活動について、去年と比べてどう変化しましたか	先行地区 7校平均	幸町	(8)授業の様子や学習活動について、去年と比べてどう変化しましたか	先行地区 2校平均	花見川
授業が楽しくなった		56%	授業が楽しくなった		37%
すすんで学習するようになった		40%	すすんで学習するようになった		20%
友達のいろいろな意見を知ることができた		56%	友達のいろいろな意見に触れられるようになった		30%
すすんで話し合うようになった		29%	すすんで話し合うようになった		13%
先生に質問したり、ていねいに教えてもらう時間が少なくなった		16%	先生に質問したり、ていねいに教えてもらう時間が少なくなった		15%
その他		5%	その他		9%
無回答		0%	無回答		2%

(9)これからどんなことに努力していきたいと思いますか	先行地区 7校平均	幸町	(9)これから、どんなことに努力していきたいと思いますか	先行地区 2校平均	花見川
新しい学校の歴史をつくっていく	39%	36%	新しい学校の歴史をつくっていく	30%	33%
友達と仲良くしていく	76%	68%	友達と仲良くしていく	55%	64%
学級の仕事をしっかりやる	52%	50%	学級の仕事をしっかりやる	41%	48%
学習発表会などの行事を成功させる	49%	38%	いろいろな学校行事を成功させる	71%	40%
きれいな学校にする	53%	57%	きれいな学校にする	47%	26%
児童会や特設クラブの活動を頑張る	32%	27%	生徒会活動や部活動を頑張る	43%	30%
その他	3%	2%	その他	4%	7%
無回答	0%	0%	無回答	2%	1%

(質問10) 児童・生徒の意見から ※質問10自由記述から抜粋

- ・友達が増えて、学校が楽しくなった。クラスの雰囲気が明るくなった。(小4)
- ・(統合前に比べて)たくさんの意見が出て、まとまらないこともあるけれど、一人ひとりの考え方を聞いて、わかり合えるので良い。(小6)
- ・1学級あたりの人数が増えたため、教室が狭く感じられる。(中3)

(2) 考察

①幸町小学校

- ・先行地区統合校の調査結果とほぼ同様の傾向となっている。
- ・(1)や(2)の回答から、全体的に児童生徒が統合を好意的に受け入れていることがわかる。
- ・(6)で「今までと変わらない」と回答する児童が多いが、それは、第一小学校出身の児童にとって、統合が2度目の経験であったためと考えられる。

※幸町地区では、平成25年度に第一小と第四小を統合し、第一小を統合校とした。

その後、平成27年度に第一小と第二小が統合し、新設校として幸町小が開校した。

②花見川中学校

- ・先行地区の真砂中学校、磯辺中学校に続き、3校目の統合校である。過去2校の平均と比較すると設問ごとに差異はみられるが、学校ごとに回答を比較すると、いずれかの学校の回答に近い数値となっていることから、統合に関する影響は過去2校と同様の傾向にあると考えられる。

○「アンケート調査」(保護者対象)

目的及び実施時期については、児童生徒と同様で、幸町小学校と花見川小学校において実施

1 アンケートの調査結果

(1) 集計結果

【小学校】

(1) お子様は、統合校には慣れたように感じられますか。	回答数	割合
①慣れた	82人	41%
②まあ慣れた	77人	38%
③どちらともいえない	23人	11%
④あまり慣れていない	9人	4%
⑤慣れていない	9人	4%
無回答	1人	0%

(2) 運動会や学習発表会等の学校行事について、児童生徒が増えたことによりお子様に変化は見られましたか。	回答数	割合
①良い変化が見られた	39人	19%
②どちらかというが良い変化が見られた	49人	24%
③どちらともいえない	93人	46%
④どちらかというが悪い変化が見られた	5人	2%
⑤悪い変化が見られた	9人	4%
無回答	6人	3%

(3) 学校が統合してから、お子様の友達関係に変化は見られましたか。	回答数	割合
①良い変化が見られた	36人	18%
②どちらかというが良い変化が見られた	55人	27%
③どちらともいえない	82人	41%
④どちらかというが悪い変化が見られた	13人	6%
⑤悪い変化が見られた	7人	3%
無回答	8人	4%

(4) 学校が統合してから、お子様の学校での学習意欲に変化は見られましたか。	回答数	割合
①良い変化が見られた	18人	9%
②どちらかというが良い変化が見られた	35人	17%
③どちらともいえない	127人	63%
④どちらかというが悪い変化が見られた	13人	6%
⑤悪い変化が見られた	0人	0%
無回答		0%

(5) 学校統合によるスクールカウンセラーの配置について、どのように思いますか。	回答数	割合
①良かった	15人	7%
②まあ良かった	44人	22%
③どちらともいえない	116人	58%
④あまり良くなかった	19人	9%
⑤良くなかった	3人	1%
無回答	4人	2%

【中学校】

(1) お子様は、統合校には慣れたように感じられますか。	回答数	割合
①慣れた	68人	41%
②まあ慣れた	61人	37%
③どちらともいえない	19人	12%
④あまり慣れていない	8人	5%
⑤慣れていない	6人	4%
無回答	2人	1%

(2) 体育祭や学習発表会等の学校行事について、児童生徒が増えたことによりお子様に変化は見られましたか。	回答数	割合
①良い変化が見られた	34人	21%
②どちらかというが良い変化が見られた	39人	24%
③どちらともいえない	74人	45%
④どちらかというが悪い変化が見られた	5人	3%
⑤悪い変化が見られた	6人	4%
無回答	6人	4%

(3) 学校が統合してから、お子様の友達関係に変化は見られましたか。	回答数	割合
①良い変化が見られた	32人	20%
②どちらかというが良い変化が見られた	45人	27%
③どちらともいえない	66人	40%
④どちらかというが悪い変化が見られた	10人	6%
⑤悪い変化が見られた	5人	3%
無回答	6人	4%

(4) 学校が統合してから、お子様の学校での生活態度に変化は見られましたか。	回答数	割合
①良い変化が見られた	17人	10%
②どちらかというが良い変化が見られた	32人	20%
③どちらともいえない	99人	60%
④どちらかというが悪い変化が見られた	10人	6%
⑤悪い変化が見られた	6人	4%
無回答	0人	0%

(5) 学校統合によって、お子様の学習意欲に変化は見られましたか。	回答数	割合
①良い変化が見られた	14人	9%
②どちらかというが良い変化が見られた	39人	24%
③どちらともいえない	91人	55%
④どちらかというが悪い変化が見られた	14人	9%
⑤悪い変化が見られた	3人	2%
無回答	3人	2%

【小学校】

(6)統合後に、統合校安全指導員の配置等で、通学路の安全確保を図ったことについて、どのように思いますか。	回答数	割合
①良かった	33人	16%
②まあ良かった	41人	20%
③どちらともいえない	107人	53%
④あまり良くなかった	13人	6%
⑤良くなかった	6人	3%
無回答	1人	0%

(7)学校統合による学校施設の改修について、どのように思いますか。	回答数	割合
①良かった	26人	13%
②まあ良かった	41人	20%
③どちらともいえない	107人	53%
④あまり良くなかった	13人	6%
⑤良くなかった	6人	3%
無回答	8人	4%

【中学校】

(6)学校統合によって、お子様の部活動への取り組みについて変化が見られましたか。(未加入時は学校全体の様子について)	回答数	割合
①良い変化が見られた	29人	18%
②どちらかというの良い変化が見られた	37人	23%
③どちらともいえない	82人	50%
④どちらかというの悪い変化が見られた	10人	6%
⑤悪い変化が見られた	5人	3%
無回答	1人	1%

(7)学校統合による学校施設の改修について、どのように思いますか。	回答数	割合
①良かった	23人	14%
②まあ良かった	37人	23%
③どちらともいえない	82人	50%
④あまり良くなかった	10人	6%
⑤良くなかった	5人	3%
無回答	7人	4%

上記（7）の具体的な意見

種別	学校	【良い点】	【悪い点】 改善点・要望等
保護者	幸町小	統合による改修で良かった施設等 ・トイレ(25) ・グラウンド[フェンス含む](21) ・全体(16) ・プール(10) ・水回り(6)	・開校後まで続いた改修工事(26) ※統合後も一部工事が続いた。
	花見川中	統合による改修で良かった施設等 ・トイレ(16) ・体育館(9) ・教室(6) ・校舎(4)	・開校後まで続いた改修(19) ※統合後も一部工事が続いた。

(2) 考察

- ・(2)(6)の回答より、半数近くの保護者が、統合により、運動会・体育祭及び学習発表会等や部活で子どもたちに良い影響が出ていると回答している。また、「どちらともいえない」を含めると共に9割近い回答があった。このことから、統合により生徒数が増えたことで、学校全体に関わる行事や部活動が活発になったり活動の幅が広がったりしたことで、子どもたちがより生き生きと活動できるようになったことが推測できる。
- ・(3)(4)(5)の回答より((5)は中学生の保護者に限る)、肯定的な回答が9割前後となり、統合によって、子どもたちの生活態度の乱れや学習意欲の低下が感じられないといった結果となった。
- ・(3)の回答より、友達関係が良化したと半数近い回答があったことから、統合により児童生徒数が増え、新たな人間関係が構築される中で、互いにより良い刺激を与えることができたと推測できる。

【参考】平成25年度に統合した磯辺小学校・磯辺中学校に関する調査結果

※「聴き取り調査」(教職員対象)

1 目的

学校統合後の現状を把握し、学校経営等の参考に資すると共に、今後の学校適正配置に係る資料の一助とする。

2 実施内容

- (1) 調査日等
- | | |
|-------------|-------|
| 平成26年10月14日 | 幸町第一小 |
| 平成26年10月17日 | 磯辺中学校 |
| 平成26年10月20日 | 磯辺小学校 |
- ※平成25年4月に統合した学校に対して調査。
- (2) 調査方法 企画課による聴き取り

3 調査結果(教職員の意見から抜粋)

- ・人間関係が固定化していた単学級とは異なり、子どもたちの交友関係が広がった。(小学校)
- ・学区が広がったとことで、いろいろな意見や要望が増え、対応に追われることが増えた。(小学校)
- ・各教科・分野で優れた指導力を持つ複数の教員を確保できるようになったため、教員への相談体制が整った。(小学校)
- ・児童が多くなったため、栄養士など一人職の業務量が多くなった。(小学校)
- ・居ながら施工は、大変な負担であり、教育活動にかなり制約があった。居ながら施工は避けたい。(小学校)
- ・統合加配で教職員数が増えたことにより、きめ細かい学習指導が行われている。(小学校)
- ・部活動において、部員数が増えたことで、生徒の競争意識が高まった。(中学校)
- ・施設の改修は、設計段階から教職員も協議に参加して進めるべきである。(中学校)

※児童生徒に対する「学校施設についての聴き取り調査」

改修された学校施設についての現状を把握するため、実際に統合を経験した児童に対して学校施設についての聴き取り調査を実施する。

- 1 対 象 平成25年度統合校：磯辺小学校3～6年生、磯辺中学校3年生
- 2 調査期間 平成26年10月15日～10月24日
- 3 調査方法 学校施設についての聴き取り調査（学級担任による意見集約）

団体		具体的な意見 ※()内の数字は、項目別意見数	
種別	学校	【良い点】	【悪い点】 改善点・要望等
児童 ・ 生徒	磯辺小	トイレ :自動で水が出る(10)、きれいになった(6) 廊下・階段 :床がきれいになった(3)、すべりにくく安全になった(2) 教室 :床がタイルになった(2) 書室 :図本が増えた(4) 体育館 :LEDが明るく便利(9)、バスケットゴールが新しくなった(2) 校庭 :遊具が増えた(8) 校舎 :明るくきれいになった(9)、エレベーターが新しくできた(5)	トイレ :自動水洗は水の無駄(2) 廊下・階段 :狭くなった(9)、汚れが目立つ(3)、流し下のタイルの清掃がしづらい(2) 体育館 :狭くなった(2) 校庭 :狭くなった(7)、自然がない(3)、サッカーができない(2)、遊具が少ない(2)、土がすべる(2) 校舎全体 :空き教室がない(4)、狭い(3)、雨の日に遊べるピロティーがほしい(2) 工事全般 :音がうるさくて学習に支障が出た(4)、トイレが遠くなって大変だった(2)、お弁当が大変だった(2)、通学が危険だった(2)
	磯辺中	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレがきれいになった ・学校全体がきれいになった ・ロッカーや棚が使いやすい ・バリアフリー化された 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板が消えにくい、書きにくい ・冷水機がないので設置してほしい ・床の汚れが目立つ ・放送の音質が悪い